

開成の杜

第129号 ●2025年12月17日 ●郡山女子大学大学院 ●郡山女子大学 ●郡山女子大学短期大学部 ●郡山女子大学附属高等学校 ●郡山女子大学附属幼稚園

●発行所／学校法人郡山開成学園 〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎024(932)4848(代) <https://www.koriyama-kgc.ac.jp> ●発行人／学園長 関口 修



安積疏水の恵に感謝して



理事長・学園長
関口 修

日本三大疎水の一つであり、明治12年に着工された安積疏水の水流は、猪苗代湖を出发点としていることは福島県民ならば誰もが知っていることでしょう。この世界に誇れる大事業が何を生み出したのか、その価値を知ることとは郡山市民にとって大切な歴史認識であると思います。東日本大震災後、国の事業として日本遺産登録に「一本の水路」という名称で認定されましたが、それは世界にも類を見ない大規模開拓事業の一部分に光を当てたものでしかありませんでした。

安積平野の開拓は武士の世が明治維新により、帯刀禁止令が發布され、失職した武士の救済措置、土族授産として本邦最初の大開拓を目的とした事業の一部分が疎水工事でありました。

日本遺産とされたことは、東日本大震災の爪痕が随所に残され、復興途中で落ち着きのない社会情況が安積疏水の意義を深掘り出来なかったのでありましょう。

郡山の成立ちを振り返ることも興味があると思いますので、ランダムに記してみます。

広々とした安積野原の開拓は干ばつが続き、灌漑用水として疎水の通水が必須でした。田畑の開墾が進み、当時の町場には殖産興業を旨とし

た明治政府の政策が反映されました。

安積疏水の水流を活用した発電所が三方所造られ、その電力が紡績工場、化学系工場、機械工業等々多くの産業を産み、多くの企業が誘致された。鉄道敷設も急速に進み、東北本線、磐越東線や水郡線が整備され、活気ある都市が創成されたのです。

明治時代末期から昭和初期の街は賑わい、映画館が堂前に3館、駅前2館あり、デパートも3店舗と活気溢れる街並みがあったと記憶しています。それ以前は須賀川、三春、本宮よりも閑散とした宿場であり、開拓に勤しんだ農民の労苦は誠に厳しいものであったと宮本百合子(旧姓中條)の小説「貧しき人々の群れ」や「播州平野」にも著されています。

安積疏水は構想から150年の歳月を経て、その水利用途は須賀川から本宮に到るまで田畑を潤し、温暖化による干ばつを防ぎ、安寧な暮らしを支え続けています。この様に福島県を中心とする地域社会を維持発展させている安積疏水は日本遺産というよりも世界遺産に相応しいと考えます。

学園の南側にある「せせらぎ小道」や開成山公園、開成山大神宮は学園の歴史を伝えています。先輩各位の尊い思い出の地でもありますし、皆さんにとってもこの環境こそが誇りではないでしょうか。

大学各学科、専攻で卒業研究発表 大学院修士論文、短大専攻科学修レポートも

郡山女子大学家政学部は各学科で10月に卒業研究発表と中間発表を行った。個人またはグループで4年間にわたり学びを深めた成果を発表した。大学院人間生活学研究科は11月に修士論文の中間発表を。また、短期大学部専攻科文化学専攻2年生は取り組んだ学修レポートを10月のもみじ会で公開した。



卒業研究を説明する食物栄養学科4年生

- 大学家政学部卒業研究発表
- 【食物栄養学科】
- ▽福島県の学校給食における郷土料理伝承のための取り組み 神崎真色／藤原未彩／白井怜那
 - ▽ルワンダ農村部の乳幼児の栄養状態改善のための離乳食作成 平良鈴瑚／阿部雪花
 - ▽サレメツドによる幼児の栄養教育 羽根田佳奈／鈴木結／鈴木麻理奈
 - ▽女子高校生卓球部における夏バテ対策に向けた栄養教育 佐藤優衣／石田心結
 - ▽裏磐梯・猪苗代地域の微生物について 渡部結月／坂上萌遥
 - ▽健康と珈琲についての研究と商品開発 井上友紀子／鈴木沙彩
 - ▽都路町産ナツハゼを活用した商品開発 平栗明愛／我妻実咲

- ▽葛尾村での取り組み報告2025① 遠藤里香／本田志乃
- ▽東北大学栽培農産物を活用した商品開発 渡邊留農／加藤綺彩
- ▽葛尾村での取り組み報告2025② HANERU葛尾とのバナメィズを活用した商品ならびにレシピ開発 高橋咲弥
- ▽小中学生サッカー選手的生活習慣・食事状況と栄養指導の効果 伊藤春佳／瀬谷彩莉／小原七海
- ▽高校生サッカー選手における試合前後の栄養管理と意識の実態 佐藤美緒／長峯藍花
- ▽勤労者への健康増進活動 高田七海／中山若奈／澤村香凛／星彩華
- ▽鏡石町での健康増進活動 石井莉楓／志賀小春／河野歩乃佳
- ▽長期間の自主継続型運動教室への参加状況と要支援・要介護認定の関係 松本望里／江見玲那
- ▽勤労者への健康増進事業の取り組み 島木柚衣／酒井美結
- ▽ヘルシーメニューの提供による嗜好調査 千葉萌々香／渡部真緒
- ▽勤労者への健康増進事業の取り組み POP掲示による購買意欲の変化 千葉萌々香／渡部真緒／鈴木彩乃
- ▽浅野智加／竹井未来
- ▽肌年齢を改善するためのアンチエイジングへの取り組み 森谷彩矢／大関実生
- ▽食物繊維とラジオ体操が血糖スパイクに与える影響について 鈴木香恋／野口優衣／橋本愛子
- ▽女子大学生を対象とした水溶性食物繊維摂取による血糖値変動の解析 齋藤桃子／平澤愛莉奈／星千尋
- ▽女子大生におけるビフィズス菌・水溶性食物繊維による低血糖改善の検証 吉田彩／本郷菜央／樋口眞優
- ▽大学ブランドパンの創出に向けた花由来酵母の探索 根本彩羽／安齋沙矢／岡崎葵／渡邊愛未
- ▽大学ブランド酒の創出に向けた花由来酵母の探索 星野聖奈／佐々木莉穂／本田千佳



生活科学学科の卒業研究発表

- 指示書導入とその課題について 國分茉莉
- ▽認知症高齢者の入浴拒否に対する支援についてーデイサービスセンターと特別養護老人ホームでの実践事例から考察するー 竹内真菜
 - ▽福島県における若年性認知症の方への支援についてー若年性認知症支援センターについて考察ー 竹田百萌
 - ▽新型コロナウイルス感染拡大による影響についてー特別養護老人ホームにおけるレクリエーションへの影響から考えるー 富協かな
 - ▽高齢者の社会的孤立を予防する地域づくりー孤立死防止の視点から考えるー 鈴木楓葉
 - ▽ICT推進社会における高齢者への影響 宮村優香
 - ▽児童虐待予防と地域社会との関係性ー地域社会とのつながりから児童虐待を予防するためにー 阿部帆乃香
 - ▽通いの場における参加高齢者への影響ー郡山市のいきいきデイクラブ事業からー 濱田唯夏
 - ▽こどもの居場所づくりの現状とその効果 田中彩葉
 - ▽児童相談所における児童虐待への対応と課題 伊藤叶琳
 - ▽旧東和町における地域の魅力づくりの取り組みー過疎地域再生の視点からー 佐藤陽菜
 - ▽高齢者によるデジタルゲーム活用の可能性ー高齢者施設への導入を視野にー 松山琴音
 - ▽大学生活における学習モチベーションについてー大学4年生を対象とするアンケートからー 阿部一織
- ▽ACP（人生会議）の進め方とエンディングノートの活用 高橋なつき
- ▽福島県東部地域におけるペアレントトレーニングの現状ー児童発達支援事業所のアンケート調査からー 山崎麗央
- ▽福島県特別支援学校における地域資源を活用した学習活動 鈴木萌華
- ▽母子世帯のワーク・ライフ・バランスの現状 黒岩堂那奈
- 大学家政学部卒業研究中間発表
- 【生活科学学科建築デザイン専攻】
- ▽日本唯一の阿吽白澤彫刻をもつ川俣春日神社の建築的価値ー建築彫刻としての位置づけと保存の課題ー 馬場麻由
 - ▽二本松提灯祭りにおける太鼓台の構造・意匠と職人技術ー国重要無形民俗文化財指定を目指した基礎的調査と地域文化の継承ー 三浦美桜
 - ▽三春町の神社建築にみる建築的特徴と管理体制の実態ー文化財保存活用地域計画策定に向けた地域文化財としての価値の再発見ー 蒲生舞緒
 - ▽旧藤田宿における歴史的建造物の特徴と歴史的風致の継承ー国見町歴史的風致維持向上計画に基づく建物調査と活用事業の実践ー 笹島志有子
 - ▽福島県の近代和風建築における地域性と素材選択の社会的背景 後藤奈菜
 - ▽南会津町田島地区における災害復興と歴史的風致の形成 久田さくら
 - ▽企業協働によるトラトラハウスの設計・施工を通じた可動型建築の実証的研究ー企業との協働による可動型建築の構築と地域展開ー 大城想世花／武藤未那
- 【生活科学学科社会福祉専攻（教職課程履修）】

就職部より

採用活動の早期化と多様化がより一層進展しており、オンラインでの選考や説明会が拡大し就職活動のあり方が変化している。学生は内定を持ちながらも、安定性を重視して就職先を選択し活動を継続、インターシップへの参加が重視されるようになっていく。

本学の10月現在の就職状況は昨年と同じような状況で推移しているが、二極化傾向は変わらない。今年は教員採用試験で6名（大学院1名）が合格した。内訳は特別支援学校（福島

- ▽食育の推進と持続可能な食生活に向けてー家庭教育の視点からー 中野愛彩
- ▽学校教育における防災教育の重要性と課題ー家庭教育における防災教育ー 佐藤万緒
- ▽高校家庭科から取り組むESDの推進に向けてージェンダー平等の観点から課題を捉えるー 渡辺莉実
- ▽現代社会における都市公園の役割ー郡山市 開成山公園を事例としてー 木幡葵
- ▽交流及び共同学習の変遷とインクルーシブ教育システムー小学校通常学級と特別支援学級の交流及び共同学習に関する研究（一）ー 大知里幸恵
- ▽小学校教員等における交流及び共同学習に関する意識ー小学校通常学級と特別支援学級の交流及び共同学習に関する研究（二）ー 小針葵
- ▽大学における自閉症者の災害時支援 三輪綾香
- ▽働く女性の子育て支援 佐藤春香
- ▽障害者雇用に関する一考察ーその歴史から見えてくるものー 佐藤光希
- ▽人間生活学研究科 土井ゆかり
- ▽栄養素及び人工甘味料に対する線虫の食行動 野木玲那
- ▽一女性アスリートにおけるパフォーマンス向上につながる栄養摂取に関する研究 野木玲那



もみじ会で公開した学修レポート

- 短期大学部専攻科学修レポート
- 【専攻科文化学専攻】
- ▽山形の習俗からみる死者供養のかたちームカサリ絵馬が担う役割と今後のゆくえー 吉原麻央
 - ▽トーベヤンソンの生涯と作品にみる家族観ー「彫刻家の娘」とムーミンシリーズを中心にー 齋藤優佳
 - ▽東北地方におけるカミ信仰の研究ー河童伝説を手掛かりにー 江瀬有葵
 - ▽平安時代の堅穴住居廃絶動作連鎖の研究ー笹山原遺跡No.16の資料を用いてー 星知伽
 - ▽恐山信仰の実態とその広がりについてー文献調査とフィールドワークからのアプローチ 樽川真奈
 - ▽後期旧石器時代の石器製作動作連鎖の研究ー笹山原No.12遺跡の資料と実験品を用いてー 堀葵咲
 - ▽ヨーロッパの紋章文化ー「獅子」紋章の普及と変容ー 佐藤真知子
 - ▽戦後の生活改善普及事業における結婚式の簡素化ー福島県および近県に着目してー 佐藤真穂

時間を要する。例えば、自己分析や業界研究がその一つ。準備不足で作成したエントリーシート（ES）は、応募書類を見ている採用担当には決して響かず、AI作成のESも見破られてしまい、書き換えてもらったという人もいた。

就活の目的は、内定を取ることではなく「自分に本当に合った企業と出会うこと」で、そのためには自分の価値観やモチベーションの源を掘り下げて言語化し、自分の軸を明確にすることが大切である。「なぜこの会社でなければならぬのか」という志望理由が重要ではないだろう。

福祉や建築に興味を持つて

生活科学科が市民参加型フェスタ

大学生生活科学科の「まなびとくらしのフェスタ2025」は11月15日、開成山公園のC棟多目的スペースで開かれた。恒例の市民講座を郡山市と協働した市民参加型の体験フェスタとして企画した。

社会福祉専攻による最新の介護機器体験やアロマテラピーの匂い袋作り、建築デザイン専攻による市内施設の設計提案・模型展示や木工クラフト



介護機器などを体験したフェスタ



ミニハウスパックを作る子ども

心の豊かさ美しさを知る

新制作座公演「泥かぶら」

第227回芸術鑑賞講座は劇団新制作座の公演「泥かぶら」を鑑賞した。

作品は劇団創設者で劇作家の眞山美保さんが書き著し、昭和27年の初演以来、1000万人を超す観客を動員した。容姿に劣等感を持つ少女が、



新制作座「泥かぶら」の舞台

災害時の食事作りを指導

防災キャンプで健康栄養学科

短期大学部健康栄養学科は9月27日に双葉郡浪江町で行われたファミリー防災キャンプで、参加した家族に災害時の食事作りを指導した。

福島県が災害時の備えや行動を体験してもらおうと企画した。健康栄養学科の會田久仁子主任教授をはじめ教職員

乳幼児の一次救命処置学ぶ 幼児教育学科1年生



救急救命士の指導で処置を学ぶ学生

短期大学部幼児教育学科の1年生は11月13日、乳幼児の一次救命処置(Basic Life Support)を学習した。

4名と1年生8名がボランティアとして参加。県内各地の22組の家族に被災した際、備蓄食品を材料に火も水も使わずにできる調理方法を指導した。



防災キャンプに協力した学生たち

講師に郡山消防署針生救急所の救命救急士を招き、講義と実技指導を受けた。乳幼児の誤嚥や窒息など不慮の事故に対応し、落ち着いて症状を確かめて適切な処置を施すことを教えられた。

保育者を目指す学生たちは訓練用の人形などを使い、子どもたちの命を守るため真剣に取り組んだ。

語り部と共に震災の 記憶の継承を考える 地域創成学科1年生



震災の記憶を伝える方法を提案する学生

東日本大震災の次代への継承などを目的にしたNHK福島放送局の企画「語り部クロス」が11月5日、短期大学部地域創成学科の1年生を対象に

行われた。

震災時に双葉郡大熊町の中学生だった小泉良空さんが、語り部として原発事故で避難生活を送った経験や故郷へ戻って双葉郡の復興に向けた仕事に就いた思いなどを語った。

学生たちはグループに分かれ、震災の記憶を継承するためにできることを話し合い、同世代や年下の震災を知らない世代へ伝える方法を真剣に考えた。

メタルビーズバッグと 講堂綴帳の由来を知る 生活文化博物館講演会

生活文化博物館の令和7年度講演会は11月15日に開かれ、「メタルビーズバッグから建学記念講堂アルミ製綴帳(どんちゃん)」を全体テーマにして繰り広げられた。



富左先生お手製バッグについて語る斎藤館長

館長の斎藤美保子短期大学部教授が博物館で展示している関口富左名譽学園長お手製のメタルビーズ綴帳の由来を講義。バッグの作り方を作家・三島由紀夫の夫人に師事し富左先生や教員らが学んだ経緯などを語った。

次いで、仲田佐和子短期大学部准教授が「記念講堂綴帳制作の思い出」と題し講演。講堂建設に際し、富左先生が発案して当時の教職員と学生らがアルミビーズ12万個を使って作り上げた綴帳の特長や苦労話などを紹介した。

赤い羽根共同募金を 郡山市社福協へ寄付



浄財を贈った大学・短大友会の代表

郡山開成学園は赤い羽根共同募金に賛同し、学生と生徒、教職員らが寄せた120,293円を郡山市社会福祉協議会へ寄付した。

11月19日に学内で贈呈式を行い、大学学友会の池田麻奈厚生部長と短大友会の芥川千佳厚生部長が郡山市社福協の柳沼英行常勤副会長へ浄財を贈った。

学園の皆さんから寄せられた善意は、地域の福祉向上や恵まれない人々を支える活動に生かされる。

第79回 もみじ会

第79回もみじ会は10月11日(土)・12日(日)に開催され、学生・生徒・園児らが学びや研究の成果を発表した。各学科・クラス、部活動、学友会、同窓会などが工夫を凝らした企画やパフォーマンスを繰り広げ「Active Dream Campus 25」のテーマにふさわしい2日間となった。



多くの一般来場者も訪れた東海道五十三次展

江戸時代の旅に関心 東海道五十三次展にぎわう

第226回芸術鑑賞講座歌川広重「東海道五十三次展」は10月7日から12日まで建学記念講堂展示ロビーで開かれた。もみじ会の共催企画で期間中は一般公開した。江戸後期に活躍した浮世絵師・歌川広重の代表作で東海道を発する江戸・日本橋と京の三条大橋を含む五十三次の宿場や周辺風景55点の木版画を展示した。また55点を蛇腹式にまとめた画帖仕立てや貴重な肉筆画の掛軸も披露した。



貴重な肉筆の掛軸も披露

学生と生徒、園児らが200年前の旅の様子や街道筋の暮らしに思いをはせながら鑑賞した。一般来場者も途切れることなく訪れ、期間中に計1000人を超えるにぎわいを見せた。



学生や高校生の質問に答え盛り上げたパパラピース

パパラピースと放課後トーク

第79回もみじ会で大学・短大両学友会の特別企画として人気YouTuber、パパラピースが来場した。10月11日夕方に「パパラピースの放課後トーク」と題して開催。参加を希望した学生と高校生、学外のファンの方を前に、じんじんとタナカガの二人が軽快なトークを繰り広げた。また、学友会が事前に募集した質問箱から、二人への質問や尋ねたい悩みの相談にも答えたり、アドバイスを送ったりして会場を盛り上げた。



もみじ会の一環となる郡山開成学園大運動会は、高校が9月26日、大学・短大は10月8日に行われた。

【高校】綱引きやムカデ競走、長縄跳び、リレーなどで競い合った。クラスの仲間や先生らの応援を背に、精いっぱい力を合わせた。チームワークを発揮したりして勝利を目指した。クラス総合順位は第1位が3年2組、第2位は食物科3年、第3位は1年1組だった。

【大学・短大】屋外で綱引きとモルック、体育館でバレーボール、ドッジボール、台風の目リレーに熱戦を展開した。クラス対抗でバレーボールなどには教員チームも参加した。総合第1位は幼児教育2年A組、第2位は幼児教育2年C組、第3位は食物栄養1年A組、幼教2年B組、幼教1年BC組だった。



市のおうすい百貨店、7日に郡山公会堂でプロジェクト「郡山マッピング」を公開しました。

附属高校の特別進学クラス研究部、音楽科、美術科、食物科は11月2日に郡山文部科学省のDX加速化推進事業(DXハイスクール)の助成を受けての活動です。最先端の技術を活用しながら各学科の強みを生かし、私たちに

とふれあう様子を特殊な映像で表し、生徒のピアノ演奏に乗せて披露しました。また、郡山市を発展させた「安積疏水と安積開拓」をテーマに、故郷の過去と現在の姿、来たる希望を表現しました。

どんぐり食堂で地元の味を提供 附属高校食物科の「産地地消」どんぐり食堂は11月15日、校内で行われた。調理師免許を目指して学ぶ生徒たちが、JA福島さくらの新鮮な食材を使い、プロのシェフや料理人の指導を受けて調理したメニューを一般市民に提供した。

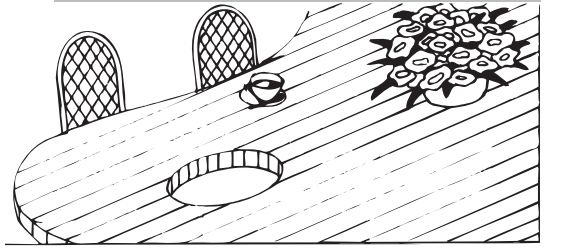


食物科の生徒が調理もてなした「どんぐり食堂」

「テト」を提供した。訪れた人たちは生徒の感謝の心がこもった料理を味わい、満面の笑顔を浮かべていた。

ティールーム

コミュニケーション・フォーラム



だろうなど、素人ながらに考察してみる時間やお社の造りを眺める時間もまた楽しい。

サウナ、水風呂、外気浴の温冷交代浴の3ステップを、1〜3回繰り返しした後、からだが軽くなり頭がスッキリすることを「とのう」と言うそうだが、私にとつて神社への参拝がまさにそれだ。喧騒から離れ、少し足場の悪い参道や社殿までの長い参道をひたすら歩きながらわたしを少しずつととのえ、また、一歩前に進みたいと願って手を合わせる。

「わたし」ととのえ方

短期大学部健康栄養学科
准教授 金子 依里香



南会津・松尾神社の参道

鳥居をくぐった時のキンと張りつめたような空気が好きだ。苔むした参道、境内に流れる風や木の葉がすれる音、木々に囲まれこの空間だけ世界から切り離され、時間がゆつくりと流れているかのような錯覚。参拝している静謐な時間は、自分と向き合う時間でもあり、答え合わせの時間でもある。

観光地として綺麗に整備された有名な神社への参拝も好きだが、どちらかというと、草木に囲まれ、ひっそりとたたずむ神社に興味がある。歴史の専門家でも建築物の専門家でもないが、なぜその場所に神様を祀ったのかを知ることが、その土地の歴史を知ることにもつながり、大変興味深い。どんな人たちが、どんな生活をして、どんなことを思っているかに社を建てたの

自分の世界を広げていく

大学生生活科学科社会福祉専攻
3年 齋藤 咲良

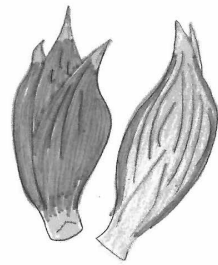
今年の夏はほんとうに暑かったですね。気づけば35度を超える日ばかりで、体が溶けてしまいうでした。そんな暑い夏、私は「食べるさわやかさ」を求めてミョウガにはまっていた。蕎麦やそうめんを食べるときに薬味として添えると、全体がさわやかになるうえに、ミョウガ自体のシャキシャキとした食感がとてもおいしいと感じています。

そんな中で、9月に教育実習に行つた際に、生徒との会話で「ミョウガの卵とじを食べるととてもおいしかった」という話を聞きました。私はミョウガを薬味としてしか使ったことがなく「そんな食べ方があるのか!」と驚きました。後日、家で作ってみるととてもおいしく、ミョウガの新しい魅力を発見したような気がしました。

「人から聞いたことやおすすめされたことを実践してみる」ということは簡単なようで、勇気が出なかつたり、正直に言うとは行動に移すまでの準備が面倒くさかつたりと、実際に行動に移すまでには様々な障壁があり、意外と難しいと感じていま

す。しかし、行動してみるからこそ、自分では気づけなかつたことに気づくことができ、そこから自分の世界が広がっていくのだと思います。

教育実習で生徒から新しい食べ方を教わったように、大学生活の中でも人との関わりを通して、自分では気づけなかつた世界を知ることが多いです。これから、そんな出会いや発見を大切にしていきたいと思っています。



ボランティアから学んだこと

附属高校普通科

3年 小黒 瑞姫

私は7月21日に行われた「R Wandaful Summer 2025」というイベントにボランティアとして参加してきました。このイベントはNPO法人のルワンダの教育を考える会という団体が主催しており、私は主に販売や来場してくれた方への会場案内を担当しました。

販売では、来場してくださった方へわかりやすいように値段のポップを作ったり、どうすれば売れやすくなるのかということを考えてたりしながら、商品を並べました。その際には、他の高校の生徒の方たちとコミュニケーションをとり、楽しく行動することができました。

販売のボランティアが終了した後は、ルワンダの教育を考える会の活動報告を聞きました。その中では、福島大学の学生の方による、ルワンダの挨拶、民謡、国旗などのクイズの時間がああり、全く知らなかつたルワンダのことをより深く知ることができ

ました。中でも、ルワンダの教育を考える会の代表の永遠瑠マリーリスさんが経験した、ルワンダ虐殺やジェノサイドの悲劇から「教育は平和と発展の鍵」ということを感じたというお話には大変感銘を受けました。

この活動を通して、私たちが普段当たり前に受けている教育は、決して当たり前ではなく、世界中には私たちの「普通」がない子ども達も多くいるのだということを感じました。だからこそ、これから先、私自身ができる支援を率先して行っていきたいと強く感じています。



マリーリスさん(右端)と記念撮影した小黒さん(左から二人目)

私の本棚

「幸福優位7つの法則」

シヨーン・エイカー 著

高橋由紀子 訳 出版社: 徳間書店

郡山女子大学附属高等学校

教諭 大内 健

成功している人とは、どのような人なのだろうか。多くの場面で見られるのは、「努力すれば成功し、成功すれば幸せになれる」という考え方ではないだろうか。つまり「成功」が先で「幸せ」が後に来るという順序だ。しかし、ポジティブ心理学と

公共広告機構のCMで2001年頃に放送された「IMAGINATION/WHALE」(別称: 黒い絵)というものがある。小学校の図工の時間、担任の先生は「自分の心に浮かんだことをそのまま描けばいいんだからね」という。児童たちは画用紙に身近な動物や昆虫などをそれぞれカラフルな色のクレヨンで描くが、ある一人の男の子は画用紙全体を黒色でひたすら塗りつぶす。

生活診断室 シリーズ 76

IMAGINATION

郡山女子大学短期大学部幼児教育学科

准教授 松田 理香

かつて美術教諭の資格取得を目指していた学生からは、「黒い色へのネガティブな印象がバイアスとなり、先回りする大人たちの行為が男の子をよ影響を呼んだ。」

かつて美術教諭の資格取得を目指していた学生からは、

「想像力のない者は翼を持たない」というモハメド・アリの言葉思い出す。大人になつても想像力を試されることばかりだ。

「想像力のない者は翼を持たない」というモハメド・アリの言葉思い出す。大人になつても想像力を試されることばかりだ。

り追い詰めたと思ったが、最後まで待つ姿勢があり、すごいと感じた『もし赤いクレヨンだったら違う解釈をしたかもしれない』などの感想があった。

現在の保育士や幼稚園教諭の資格取得を目指す学生からは、『黒は悲しみや怖れを表す色だと聞いたことがあるが、黒い色に男の子の自我の強さを感じ、仕上がった絵は魅力的だと思つた』、『一枚の画用紙だけで絵を完結させず、大量の画用紙で大きなクジラが完成するところ』に、子どもの無限大の想像力を感じた。などの感想が書かれていた。

脳科学の10年以上にわたる研究により「成功と幸せの関係は逆である」ことが明らかになっている。著者自身もハーバード大学の学生1600人と、フォーチュン500に選ばれた世界的な大企業数十社を対象にした研究でこの事実を実証している。

本書『幸福優位7つの法則』では「幸福と成功の関係」について、科学的根拠に基づいて解き明かしている。読者は、幸福優位性を高めるための7つの法則——①ハピネス・アドバンテージ(幸福優位性)、②心のビ

『幸福優位7つの法則』——幸せとは何か、成功する人とはどのような人なのかに興味がある方に、ぜひ読んでいただきたい。

高校バレーボール部 県大会10連覇で春高出場

附属高校バレーボール部は第78回全日本バレーボール高校選手権大会(春高バレー)の福島県代表決定戦で優勝し、10年連続27回目の出場を決めた。

11月19、20の両日、福島市で行われた代表決定戦で、附属は準々決勝の若松商業、準決勝の聖光学院をいずれも2-0で退けた。決勝は福島成蹊と対戦。終盤、接戦となったもののセットカウント3-1で栄冠を手にした。



春高バレー県大会で10連覇を果たした部員たち

藤本さんが最優秀賞 ミートデリカ県大会



国産食肉を使った料理のアイデアを競う「2025ミートデリカコンテスト」福島県大会で、藤本悠愛(ゆな)さん(大学食物栄養学科1年)Ⅱ写真Ⅱが考えた「和と洋の豆腐ナゲット」が最優秀賞に選ばれた。

鶏ひき肉と豆腐で作った2種類のナゲットを和風やタルタルなど用意した3つのソースで、好みの味の組み合わせを楽しんでもらえる。

藤本さんは年明けの1月10

県知事賞に歌川さん きのこ料理コンクール



日に都内で開かれる全国大会に出場する。

本学園のそのほかの受賞者は次の通り。

▽優秀賞Ⅱ尾梶怜奈(高校食物科3年)▽入賞Ⅱ渡辺さおり(高校食物科3年) 桂愛紗(高校食物科1年)

附属高校令和7年度(秋季) 各種大会・コンクール成績

- 【新体操部】
- ◇第79回国民スポーツ大会(滋賀)
 - ▽団体 第10位
 - ▽個人 第17位
 - ▽総合 第12位
- ◇福島県高等学校新人体育大会
- ▽女子団体 第1位Ⅱ東北大会出場
 - ▽個人総合
 - 第1位 佐藤咲来(2年)、第2位 川俣凛夏(2年)、第3位 宗像風紗(1年)Ⅱ以上東北大会出場
- ◇東北高等学校選抜大会
- ▽女子団体 第2位
 - ▽個人総合 第2位
 - 川俣凛夏Ⅱ全
 - 国大会出場、第7位 宗像風紗、第8位 佐藤咲来
- 【ハンドボール部】
- ◇第79回国民スポーツ大会(滋賀)
 - ▽1回戦
- 肉巻きおろしソース添え」が県知事賞に選ばれた。
- 本県産にこだわって、シイタケのうまみが逃げないように豚肉で包み、大根とリンゴのおろしソースで仕上げた。
- 歌川さんは附属高校在学時から同コンクールに挑戦し5年目で栄冠に輝いた。ただ、来年3月の全国大会と卒業式が重なるため県の代表は辞退するという。
- 本学園のそのほかの受賞者は次の通り。
- ▽優秀賞Ⅱ遠藤美樹(短大健康栄養学科2年)▽特別賞Ⅱ浜尾莉来(高校食物科1年)▽奨励賞Ⅱ伊藤妃由(高校食物科1年)

尾梶さんの料理が最高賞 生ごみ0減るしいレシピ

郡山市と福島民友新聞社が共催の「生ごみ減量!減るしいレシピコンクール」で、最優秀賞に附属高校の尾梶怜奈さん(食物科3年)Ⅱ写真Ⅱの「かぼちゃの皮のごろっと野菜ピザ&かぼちゃの黄金クリームポタージュ」が選ばれた。

フードロスゼロの考えから、か



附属高校のほかの受賞者は次の通り。

- ▽優秀賞Ⅱ金子怜実(食物科1年)
- ▽佳作Ⅱ橋本心結、福地愛香(食物科3年) 高橋葵(食物科2年) 佐藤若奈、小坂橋舞衣(食物科1年)

本学でクッキング コンテストも実施 さんフェア福島

全国の専門高校等で学ぶ生徒の祭典・第35回全国産業教育フェア福島大会(さんフェア福島)は10月25日・26日に郡山市を中心に開かれた。

全国の商業、工業、農林業、

- 第9位
- 【テニス部】
- ◇東北私立高等学校テニス選手権大会
 - ▽団体 第7位
 - ◇福島県高等学校新人体育大会
 - 第1位
 - 【陸上競技部】
 - ◇福島県高等学校新人体育大会
 - ▽砲丸投げ
 - 第3位 遠藤美咲(1年)第4位 湊真央(1年)Ⅱ以上東北大会出場
 - ▽円盤投げ
 - 第1位 湊真央、第4位 吉田美紅(2年)Ⅱ以上東北大会出場
- ◇東北高等学校新人陸上競技選手権大会
- ▽円盤投げ
 - 第2位 湊真央、第7位 吉田美紅
 - ▽砲丸投げ
 - 第3位 遠藤美咲、第5位 湊真央
- ◇福島県高校駅伝2025

- 【卓球部】
- ◇福島県高等学校新人体育大会
 - ▽学校対抗 第3位Ⅱ東北選抜代表
 - ▽ダブルス
 - 第3位 柳沼夏帆(2年)・山田結奈(2年)
 - ベスト8 秋元愛美(2年)・神谷美月(2年)
- 【弓道部】
- ◇福島県高等学校新人体育大会
 - ▽女子団体 第3位
 - 【卓球部】
 - ◇福島県高等学校新人体育大会
 - ▽学校対抗 第3位Ⅱ東北選抜代表
 - ▽ダブルス
 - 第3位 柳沼夏帆(2年)・山田結奈(2年)
 - ベスト8 秋元愛美(2年)・神谷美月(2年)
- 【バレーボール部】
- ◇第36回東北私立高等学校男女バレーボール選手権大会
 - 第2位Ⅱ全国大会出場
 - 【合唱部】
 - ◇第79回福島県合唱コンクール 銀賞
 - ◇第77回全日本合唱コンクール東北支部大会 銀賞
 - 【食物科】
 - ◇牛乳・乳製品利用料理コンクール福島県大会
 - ▽最優秀賞 三浦桃果(2年)▽優秀賞 片寄優衣(1年)▽優良賞 大槻彩乃(2年)

ぼちゃの果実でポターージュを作り、捨ててしまいうような皮を利用して舞茸やミニトマトと合わせたピザにした。

水産系、家庭系、福祉系の高校に通う生徒と教職員らが参加。メイン会場のビッグパレットふくしまで各都道府県の高校が展示や発表などを繰り広げた。

本学では家庭部会主管のクッキングコンテストが行われ、代表6チームが出場。米を主食とした「高校生のためのワンプレート朝ごはん」の課題で考えた料理のプレゼンテーションと調理を行い、審査を受けた。



本学で行われたクッキングコンテスト

また、ビッグパレット会場では企業・大学等の紹介ブースが設けられ、本学も出展して学生

募集に役立てた。

物価高に対する支援 学生に米2kgを配る

日本学生支援機構と本学は「物価高に対する食の支援事業」として大学・短期大学の学生へ米2kgずつを配った。

11月12日・13日に行われた学友会のフードドライブに併せて実施した。米は地元のブランド米「あさか舞」でクラスごとにまとめて配布した。

フードドライブでは、学生や教職員が提供した食品や日用品を必要とする学生に持ち帰ってもらった。



物価高対策で配られた米2kg



新しい本が
届きました。
第30回

郡山女子大学 大学図書館

学生さんからリクエストのあった
本をご紹介します。



『ニチレイフーズの
広報さんに教わる
食材の冷凍、
これが正解です!』

ニチレイフーズ監修,
KADOKAWA

請求記号
596.11Ni



『描きたい絵が
描けるように
なる本』

しまだきジョセ著,
翔泳社

請求記号
726.51Si



『ローマの眠り:
あるいは
バロックの
遁走』

谷川渥著,
月曜社

請求記号
702.051Ta



『叡智のアルストピア:
オリентから、そしてすべては、
イタリアへ(イタリア美術叢書VI)』

伊藤博明^[ほか]著;伊藤博明責任編集;
石井朗企画構成,ありな書房

請求記号 702.3711



厳島神社で記念撮影



舞妓さんと一緒に

大阪城をバックに



法隆寺でガイドの話を聞く



広島で千羽鶴の奉納



USJで仲良くポーズ



いざ!!USJへ



詳しくは
二次元コードから
ホームページを見て
ください。

郡山市は、ふるさと納税を活用して市内の大学を応援する「郡山市学びと絆寄附金」の受付を11月から開始した。本学も支援の対象となり、ふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」から本学を指定して寄附(1口1万円)された部が、本学の地域貢献につながる教育研究活動に充てられる。同寄附金に返礼品はないが、ふるさと納税の取り扱いを受けられ、郡山市民も寄附が可能となっている。

本学への寄附に関する内容はホームページの「地域連携」サイトの「ふるさと納税の寄附について」に掲載している。

郡山女子大学応援ふるさと納税



本学の教育研究へ寄附
郡山市ふるさと納税で

東日本大震災の発生から間もなく丸15年となる。福島県は今なお、原発事故により避難を強いられれた相馬(相馬・双葉)地方を中心に復興の遅れは否めない。それでも避難先から戻った人や移住した人たちが伝統の技術を磨いたり、新たな分野に挑戦したりして地域の産業や活性化に明るい兆しを見せている。その一つに酒類の生産施設が震災前に比べ数種類も増え、新たな醸造文化が芽ばえてきた。避難先の県外で日本酒を造り続けた浪江町の蔵元は、観光名所になっている道の駅に拠点を構え人気

木もれ陽

を博す。富岡町と川内村には人々が集うワイナリーが誕生。南相馬市小高区では、日本酒の製造法で米を主原料にホップや果実などを取り入れたクラフトサケが評判だ。昨年、本学の教職員向けの研修で起業について講演した青年は、移住先の川内村でクラフトジンの蒸留所を開業。村のふるさと納税の返礼品になるなど地元と一体となり励んでいる。様々なお酒の登場は「常磐もの」と呼ばれる海の幸や地場産品で作る料理と結び付き、多くの人を呼び込む魅力となることを期待したい。

(浅)



高校美術科2年 柳沼 あこ

「自画像」

F15号

第76回県南美術展
青少年奨励・福島民報社賞



高校美術科3年 渡邊 かれん

「静寂のアトリエ」

F50号

第76回県南美術展
青少年奨励・福島民友新聞社賞

紙上美術展108

郡山女子大学附属高校美術科生徒の作品です。授業のみならず、朝や放課後の時間を活用して熱心に制作を行っています。美術科では集大成として卒業作品展を実施しており、その展示に向けて制作した最初の作品です。各種公募展覧会への出品を積極的に行っており、輝かしい成果をあげています。